

(No. 1)

「ベルリン・女子ミニマラソン」

三年 那須田 瑛

一年に一度しかない日はたくさんある。た
 ん生日やクリスマス、それにお正月。それが
 ら今日みたいな日。そう、今日は「ベルリン
 女子ミニマラソン」！まち合わせは学校の前
 つくと、わたしと同じクラスのリリーしかい
 ない。一家族全員だけだね。」
 それからわたしの友だちビビアンもお母さ

んといっしょに来た。ビビアンのお母さんは
 今日、わたしたちといっしょに走ってくれる
 のだ。たんたん人があつまって来る。先生が
 みんないるかチェックしている。よし、み
 んなあつまった。さあ、そく行こう！先生が
 言うとおわたしとビビアンはまっさきに先生の
 後をおった。どこに行くか？もちろんわ
 たしたちがマラソンの前に、ちよつと休める
 場所へ。つまり、しゅうごう場所みたいな所
 今日、スタート地点、六月十七日通りは

学校のすぐそば。まわりは「テイアガルテン」という森とみずうみのある公園だ。みどりがいっぱいある。そこで水をのんだりおべん当を食べたりして出番が来るまでまつのだ。

「スタート！」とつせんアウンスの声があった。おかしいな、また出番じゃないのに……。見ると、目の前の六月十七日通りをわたしよりも小さい子たちが走っている。中には男の子たちまでいる。なんでだ？ 女子マラソンなのに。しばらくするとさざさざきの子たちが帰

て来た。十キロくらい走ったらしや。え？ あたしたちは何キロ走るか？ ああ、さけ後まで走れるかふあんだ。

「ねえ、みずうみであそぼうよ」とつせんわたしはビビアンに話しかけられた。「あ、うん！」

湖でいっしょにあそびながらビビアンは言った。「いやになっちゃうよね。早く来たの

にあと一時間もまつなんて。」「え？」「あ、わたしはびっくりにした。」「瑛、知らなかつたの！？」

「あ、ちん知ってるよ。うそだけ。」

「あと三十分、またまたか。ビビアンは

さっきからうで時計を見ている。よっぽどワ

クワクワしているのさ。それはわたしも同

じ。先生がわたしたちにセツケンをつけてく

れた。わたしの番ごうは、1882だ。

「先生、いつスタートするのでですか？」と

わたしたち。もうすぐだよ。でも、この場

所かどこかわかるように行き方を見せよう。

行き方を教えてもらうと、いよいよママと

さよならだ。

「じゃあがんばるね。わたしはママにさう

言うどビビアンをおった。スタート地点へ行

くのた。それにしても、頭がクラクラするく

らいの人だらけ。ビビアンもわたしもきんち

ょうしてたまらない。夫せいの人の中で二人

の小人とお母さん)が立っているみたい。

「スタート五分前。ビビアンがピョーンピョ

ンはねる。スビィカシがさずくと聞こえてい

た音楽がふとやみ、アナウンサーの声かした

た音楽がふとやみ、アナウンサーの声かした

「みなさん、たいぶドキドキしているようで
すね。」とドキドキしているわ！そうさけ
びたい。「スタート20秒前です。」あー、き
んちやうしてたまらない！「ヒヒアンがふる
えている。その気もちはよくわかる。」スタ
ート10秒前！九、八、七、アウンサーの声に
ますますきんちやうが高まる。七、六、五、
四、三、二、一、わたしもいっしょになっ
てさけぶ。大きな
「三！二！十！スーダー！」大きな
かん声と同時にみんなが走り出す。わたしも
ヒヒアンもいっしょに走り出した。でも、は
じめからこんなにとばしていいのたろうか。
「ヒヒアン、あーキー、もっ、とやっくり
走りなさいい！そんなにとばしちやないよー
ー、やっぱりお。ヒヒアンとわたしはス
ドを落とすし、ヒヒアンのお母さんといっ
のペースになつた。
すると、わたしたちが走っている。通りで
いの人かきの中にママが見えた。手をふって

い。ろ。い。てき。ま。す！「わ。た。し。が。さ。け。ん
 た。み。お。わ。た。し。の。姉。ほ。カ。メ。ラ。で。し。ゃ。し。ん。を
 と。て。い。る。わ。た。し。は。ヒ。ー。ス。サイ。ン。を。出。し。た。
 カ。シ。ヤ。！。と。れ。た。か。な。？。後。で。見。せ。て。も。ら。お。う。
 そ。れ。よ。り。も。走。ら。な。い。と。！。ハ。ア。！。ハ。ア。！。半
 分。く。ら。い。は。行。つ。た。か。な。？。そ。う。思。っ。た。時。か。ん
 は。ん。が。見。え。た。！。キ。ロ。！。け。け。！。ま。た。た。っ
 た。の。し。キ。ロ。？。こ。の。五。倍。が。ア。し。ぞ。の。う。ち。に。ア
 イ。ア。ガ。ル。テ。ン。の。森。へ。入。っ。て。行。つ。た。
 ヒ。！。あ。！。キ。！。あ。！。キ。！。と。つ。ぜ。ん。ヒ。ヒ。ア。ン。の
 声。か。し。た。は。！。と。し。て。ふ。り。む。ぐ。と。！。と。は。し。す
 ぎ。！。と。言。わ。れ。た。わ。た。し。は。ま。た。ス。ー。ス。を。落
 と。し。ビ。ビ。ア。ン。と。い。し。よ。に。な。り。ん。で。走。つ。た。
 ハ。ア。！。ハ。ア。！。な。ん。て。あ。つ。い。ん。だ。ら。う。
 ま。さ。で。さ。ば。く。た。こ。の。あ。つ。さ。は。た。え。き。れ。な。い。
 水。を。の。ん。で。お。け。は。よ。か。つ。た。
 男。の。人。が。は。た。を。も。っ。て。い。た。は。た。に。は。こ。う
 書。い。て。あ。つ。た。！。！。か。ん。ば。れ。！。！。そ。の。後。ろ。で。は
 カ。ス。タ。ネ。ツ。ト。を。も。っ。た。男。の。子。や。女。の。人。か。！。！。が。
 ん。は。れ。！。！。と。さ。け。ん。で。い。た。こ。う。お。う。え。ん

う	と	し	そ	分	て	つ	れ	み			も	体	る	な	っ	い		と	う	さ
！	っ	い	う	あ	い	さ	し	、	そ		い	む	！	い	ち	！		は	！	れ
わ	ー	い	う	あ	た	り	し	水	の		た	む	何	！	ち	も	は	！	！	
ざ	ん	；	言	あ	た	な	い	！	時		い	や	も	休	だ	う	け	！	！	
わ	と	。	わ	さ	た	ん	な	！	び		。	あ	か	み	め	た	ま	！	！	
ざ	す		れ	さ	た	で	な	！	び		。	せ	も	た	な	。	さ	！	！	
つ	る		て	な	た	い	た	！	ア		。	む	な	い	の	た	気	！	！	
め	く		の	い	と	て	た	！	ッ		。	っ	け	け	。	。	づ	！	！	
た	ら		み	そ	？	そ	大	！	か		。	し	し	ど	。	。	け	！	！	
い	い		な	の	水	中	き	！	さ		。	よ	ま	。	。	。	ら	！	！	
の	つ		が	み	た	に	な	！	け		。	り	い	。	。	。	れ	！	！	
を	め		ら	な	と	人	つ	！	ん		。	だ	た	。	。	。	。	！	！	
用	た		走	が	？	が	く	！	た		。	。	い	。	。	。	。	！	！	
い	か		っ	走	や	水	え	！	。		。	。	け	。	。	。	。	！	！	
し	っ		る	っ	っ	を	に	！	。		。	。	ど	。	。	。	。	！	！	
て	た		の	た	。	い	コ	！	。		。	。	。	。	。	。	。	！	！	
く	さ		は	さ	。	。	ッ	！	。		。	。	。	。	。	。	。	！	！	
れ	い		む	い	。	。	。	！	。		。	。	。	。	。	。	。	！	！	
た	の		ず	。	。	。	。	！	。		。	。	。	。	。	。	。	！	！	
ん	お		か	。	。	。	。	！	。		。	。	。	。	。	。	。	！	！	
	。		か	。	。	。	。	！	。		。	。	。	。	。	。	。	！	！	

(No. 7)

手	に	何	か	も	っ	て	い	る	。	マ	マ	!	が	ん	ば	れ	!	し	
	む	こ	う	に	岩	か	が	見	え	る	。	そ	の	上	に	男	の	子	。
く	し	ん	ど	い	!														
ろ	そ	ろ	ま	た	水	か	の	み	た	く	な	っ	て	き	た	。	と	に	か
ち	!	し	と	言	い	な	が	ら	右	を	ゆ	び	さ	し	て	い	る	。	そ
色	い	ぼ	う	し	を	か	ぶ	っ	た	女	の	人	が	っ	こ	っ	ち	こ	っ
	と	な	り	を	見	る	と	野	原	が	あ	っ	た	。	そ	の	は	黄	
と	ろ	キ	ロ	の	こ	っ	て	い	る	け	ど								
キ	ロ	!	よ	っ	し	ヤ	あ	!	半	分	す	き	た	ん	た	!	あ		
た	っ	た	。	見	る	と	か	ん	ば	ん	が	目	に	入	っ	た	。	マ	ッ
る	と	「	見	て	!	し	と	こ	ん	ど	は	ビ	ビ	ア	ン	が	言	う	番
か	言	う	と	、	っ	本	当	だ	!	し	と	ビ	ビ	ア	ン	。	少	し	す
は	車	を	お	し	て	走	っ	て	い	る	。	っ	見	て	!	し	わ	た	し
ン	が	に	っ	こ	り	わ	ら	う	。	前	を	見	る	と	女	の	人	が	う
か	ら	言	っ	た	。	マ	わ	た	し	も	し	の	答	え	に	ビ	ビ	ア	
な	い	よ	い	わ	た	し	は	大	き	く	し	ん	こ	き	う	を	し	て	
ら	い	た	く	な	っ	て	こ	な	い	?	し	う	う	ん	、	い	た	く	
い	る	と	ビ	ビ	ア	ン	が	聞	い	て	き	た	。	マ	環	、	わ	き	は
た	か	う	」	ご	み	ば	こ	に	入	れ	た	。	し	は	ら	く	走	っ	て
た	な	。	コ	ッ	の	水	を	の	み	ほ	す	と	、	一	紙	コ	ッ	の	

男の子がさげんた。4キロのかんばんはす
 ぐそこだよ！「お母さん、どこ走っている
 のかな？そして4キロのかんばんはどこだ
 ろう。そう思ったとたん、4キロのかんばん
 が見えた。よし、そこまでおもいきり走ろ
 う！かんばんにはすぐついた。わたしはビビ
 アンの方をふりかえった。ビビアンはせーせ
 ー言いながらおいかけて来る。「あと1キロ
 だね。わたしかわらうとーうん！とビビア
 ンもにっこりした。わくわくしてきた。くる
 しみもつかれもふつとんていた。たつて、
 もうすぐゴールインだもん！
 ちやうどその時またつくえの上にもツアが
 ならんでいた。わたしはのみなから走り、ゴ
 みはこがなかった。ので、みんながやっている
 ように地面になけた。ひろうん、大へんたろ
 うな。一つめんなさい！
 とおくに大通りが見えて来た。というときと
 は、また六月十七日通りにもどつてきたんた
 ！わたしはあせをふいた。

【海外子女教育振興財団】

なかからかけてくれた。メダルはキラキラかが
 所へ行く。一人一人首にメダルをにっこりし
 女の人が目に入った。わたしたちはその人の
 とにした。と、その時メダルをくばっている
 母さんといっしょに「う合場所へもどるこ
 その後、わたしはビビアンツのお
 番うれしかつた。かちまけはかんけいなし。
 しがつた。たけどせんぶ走り切った。とが
 ンは「やつたー！ゴール！」と言いながら走
 て来た。と中はともつらかつた。たけと、梁
 電とうの前に立ってビビアンを見た。ビビア
 うれしかつた。しあわせだった。わたしは
 とうとう、ゴールイン！
 メートル五分メートル：一メートル：そして、
 たり走り出した。ゴールにおかつて。あと十
 とおくにゴールが見えた。わたしはおもいつ
 た。うん。もうすぐ五分口しりうりうだ！
 かつた。すこい！えらい！とさけんでい
 れ！「あとちよつと！」できると思わな
 く大通りにつくとき、みんな「キヤー！かんは

「海外子女教育振興財団」

やっていた。かんぱつたかいかあつたな。
 三人でしやう合場所に帰るとママとお
 かまっていた。わたしをきやつたきしめた
 おめでとう！メダルを見せると二人はと
 こもよろこんでくれた。
 帰り道、わたしはもう一どメダルをにぎり
 しめた。このメダルはわたしの一生のたから
 物なのだ。

(おわり)

【海外子女教育振興財団】